

会 議 録
-------

会 議 の 名 称	第4回 枚方市総合計画審議会 第2部会
開 催 日 時	平成27年3月23日（月） 18時00分から20時10分まで
開 催 場 所	枚方市立総合福祉会館ラポールひらかた3階 研修室2
出 席 者	部会長：吉川委員 副部会長：後閑委員 委員：伊東委員、榮野委員、嶋田委員、谷本委員
欠 席 者	角野委員、高井委員、富岡委員、橋本委員
案 件 名	1. 基本計画に係る部門別の取り組みについて 2. 今後の進め方について
提出された資料等の名	1. 委員からの追加意見一覧 2. 市議会からの意見等一覧（平成27年3月） 3. 総合計画策定スケジュール（案） 参考資料1. 第3回 第1部会における委員意見一覧 参考資料2. 第3回 第2部会における委員意見一覧
決 定 事 項	1. 第3回部会の資料「部門別の課題と対応一覧（案）」及び「部門別の取り組み進捗状況一覧」に基づき、基本目標「地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち」、「自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち」、及び「行政運営」に関する各部門について、基本計画に掲載していく課題や対応の内容を議論・確認した。 2. 資料1の委員意見を踏まえながら、基本計画の12年間における「重点化する取り組み」について、議論・確認した。 3. 第3回及び第4回の部会の意見を踏まえて、事務局から、「部門別の課題と対応一覧（案）」の修正案等を提示させ、次回の審議会で議論・確認することとした。 4. 今後の計画策定のスケジュールを確認した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	1人
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	政策企画部 企画課

審 議 内 容

吉川部会長

出席ご予約の委員の皆さんお集まりだということで、第2部会を開催させていただこうと思っております。

本日の部会は、前回、皆さんにご議論いただきました「部門別の課題と対応一覧」、前回も行きつ戻りつ、何度も見た資料でございますが、これに対して各委員から追加いただきました意見の内容について、事務局の方からまずご説明をいただき、その上で、前回の部会では前半の3本の柱、基本目標というものですが、ご議論いただきましたので、本日は残りの2本と、それから最後に行政運営という項目が挙がっていると思いますが、この部分についてもご議論いただきたいと考えております。議論の中で、前半の3つの柱にもある意味で立ち戻るといってもあろうかと思えますし、具体的なご意見を積極的に話しただければと思っております。

前回の審議会でも、審議の進め方について確認させていただいておりますが、今日は各部門全般をご議論いただいた後に、時間的に余裕ができるかどうかちょっと定かではありませんが、余裕があれば、次へのステップとして、重点的に部門を横断するといえますか、横串を刺すみたいなの、「重点化すべき取り組み」というものについて、ご審議、ご検討いただきたいと考えております。

それでは、時間も有効に活用したいと思いますので、早速ではございますが、事務局の方から委員の出席状況、その他、資料の確認をお願いしたいと思います。

事務局

本日の出席委員は6名で、枚方市附属機関条例に基づき、この部会が成立していることをご報告申し上げます。続いてお手元の資料の確認をさせていただきます。

(手元の資料の確認)

吉川部会長

それでは、早速ではございますが、次第の「2. 案件(1)基本計画に係る部門別の取り組みについて」事務局の方から説明を受けたいと思います。資料につきましては、事前に各委員の皆様へ配付し、資料をお読みいただいていると伺っておりますので、説明については簡潔にお願いをすることとさせていただきます。では、事務局の方から説明をお願いいたします。

事務局

(資料1「委員からの追加意見等一覧」)の説明

(資料2「市議会からの意見等一覧(平成27年3月)」)の説明

(参考資料1「第3回 第1部会における委員意見一覧」)の説明

(参考資料2「第3回 第2部会における委員意見一覧」)の説明

吉川部会長

はい、どうもありがとうございました。ただいま事務局より資料に基づいて委員の皆様からの追加意見などについてご説明をいただきました。委員の皆様におかれましては、前回の部会と同様、「部門別の課題と対応一覧」、これはA3版の資料ですが、これを中心に「部門別の取り組み進捗状況一覧」のほか、ちょっといろんな資料が点在することになるかと思いますが、本日の資料を参考にご覧いただきながら、ご自由にご発言いただければと考えております。

前回と同様にご発言いただく内容については、ホワイトボードの方に記入させていただいて、皆さんにご確認いただくとともに、最後には本日の議論の確認、共有化を行ってまいりたいと考えております。コンサルタントさん、よろしく願いいたします。限られた時間での議論ということになりますので、基本目標の4つ目、先ほどのページでいくと13ページ「地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち」から順番に4番目、5番目、そして行政運営ということで、前回と同じように、1つの基本目標について、大体30分くらいを目安にご議論をいただければと考えております。私はタイムキーパーに徹しようと思っております。それでは13ページを開いていただいて、まず基本目標「地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち」、13ページから15ペー

伊東委員	<p>ジの部分についてご意見を伺ってまいりたいと思います。よろしくお願いたします。</p> <p>13 ページの上の「枚方市駅周辺のにぎわいにつながるイベントの開催」というところですが、ここで「広報ひらかた」の紙面を増やした方が、もうちょっといろんなイベントを載せられるんじゃないかなと思うんです。NPO センターの行事に入ったことがあるんですけど、広報課から「文字数を減らしてくれと言われているので、これは載せられません」ということを何回か言われたことがあるんです。それってやっぱり伝わらなくなっちゃうので、にぎわってほしいんだったら、広報紙を増やせば結構簡単じゃないかな。だから、知らない方が結構いると思うんですよね。本当はやっているけれども伝わっていないとか、見えてないとか、見せられていないとか、そこは簡単じゃないかなと思います。</p>
吉川部会長	<p>はい。広報の1つの方法として広報紙を活用した方がよいということですね。</p>
伊東委員	<p>単純なことで、ページを増やすということです。</p> <p>それで、その下に菊文化というのがあるんですけど、これは菊人形のことだと思うんですが、ひらかたパークがそういうことを縮小しているのだったら、枚方市の方で、例えば駅に1つ菊人形を置くとか、それは京阪電車にお願いしないといけないと思うんですけど、京都に行ったら中書島駅に龍馬の人形があったりして、人形というか看板ですけど、枚方市内でも各駅で何かテーマをつけて、大河の主人公だったり、NHK の朝ドラでもいいんですけど、話題の人形に菊をかぶせていたりすると、そこで下車すると思うんですよね。そうすると、降りてもらえる人が増えるんじゃないかなと思います。</p>
後閑副部会長	<p>参考資料のところにあるんですが、16 ページの上のところに「桜と菊を生かしたフェスティバル来場者数」が急激に落ちてしまっているんで、最初からそんなに低い目標値ではないんでしょうけれども、何か原因があったのかなと思ったんですが、平成 24 年、25 年って、こんなに少なくなるということってないだろうなって思ったんですけども、ちょっとこのデータが本当に来場者数を示しているのかなと。</p>
事務局	<p>具体的な理由を示した資料は探ささせていただきたいと思うんですが、桜などのフェスティバルの関係につきましては、例えば開花時期がちょっとずれているというところが一つと、菊の方もちょうど雨の関係で来場者数も2年続けて減少しています。</p>
事務局	<p>この資料のグラフの下に、指標の推移の理由を書いております、ちょうど2つ目の「桜と菊を生かしたフェスティバル来場者数」については、この指標の設定についても問われるところなのかもしれませんが、24 年度、25 年度については、悪天候ということで期間が短縮されているということがございました。そういうところから突発的に数字の方が落ち込んでいるということになっております。</p>
後閑副部会長	<p>なかなかこういうのって難しいですよ。何か継続性のある持続的なものでない限り、枚方市駅を中心に人を呼び込むといっても、突発的なフェスティバルを何回開いても、継続的なものではないので、枚方市駅に来るたびに、人が集まれるところがもう少しあるといいなと思ったりします。</p> <p>もう一つ、この「国際交流ボランティア」の目標値はかなり高く設定してあるのかもしれないんですが、実際の数と目標値との乖離があるんじゃないかなと思うんです。この国際交流ボランティアというのはどういう組織なんですか。</p>

事務局	<p>そうですね。そちらのグラフのところには小さく説明と書いておりますけれども、文化国際財団という団体がございまして、そちらの方で国際交流を目的に活動していただけるボランティアを募っているというところがございます。登録していただける方を募るということで進めてはいるんですけども、目標値については、当初、現行の総合計画を作成したときに、これまでの推移を見込んで目標値を設定しているんですが、手を挙げていただける方がなかなか思うように出てこなかったというところで、目標値までたどり着いていないということになっております。</p>
後閑副部長	<p>もしかしたら、具体的にどういうことをするのかということが、市民の方はわからないことってありませんか。外国から来た人と何か交流会か何かがあるんですか。それともホームステイを受け入れるとか、その部分がもう少し市民に具体的にわかってくると、もしかしたらできる範囲でというところで、より広く参加できるようになってくるかもしれません。</p>
事務局	<p>はい。ちょっと内容も細かく調べまして、またご回答させていただきます。</p>
後閑副部長	<p>実は、少し前に医療通訳が始まったときに、私は通訳者の養成の際に参加させていただいたことがあるんです。医療通訳になりたいということで応募された方が予定よりもすごく多く、10人くらいの募集に100人くらい応募されたんです。ですから、そういうことに参加したいと意識を持つ人たちはもっとたくさんいるんじゃないかなと思いついて、それなりに内容をわかりやすくしていくと、もう少し集まるんじゃないかなと思います。</p>
吉川部会長	<p>観光・交流以外もたくさんありますし、先ほど事前にご意見を伺ったときに、谷本さんの方から大学連携という話もあったように思うんですが、ご意見ございませんでしょうか。</p>
谷本委員	<p>追加の意見で出させていただいている中で、大学の話は、住みたいまちとか、そういう方向性を出している中で、地元でせかくたくさん大学のあって、学生さんもたくさん通っておられるので、そのままこの地で居住もしていただきたいし、働く環境もこの地域で見つけるなり、長く定住を図れるんじゃないかなという方向性の一つとして、市内で定着する地元企業への就職という視点があってもいいのかなと感じたので、出させていただいています。</p> <p>あと、先ほどの観光の話ですと、今、大阪市内と京阪沿線をつないで淀川を活用した川辺の活性化が方向性としてありまして、大阪市内からずっと舟運でつながってきた地域が枚方にもあると思いますので、そこをもう少し観光資源として生かすように打ち出してもおもしろいんじゃないかなと。今後、新しい観光施策の一つとしてはどうか。すでに舟運でかなり活気づいていらっしゃると思うんですけども、より一層というふうに感じました。</p> <p>あと、追加意見で出させていただいているのと重なりますが、中心市街地について、中心市街地と書いているから枚方市駅周辺だと思ってしまうんですけども、他の地域もあってこそその中心市街地という位置付けもあると思いますし、今後の発展を考えたときに、人の住むエリアの分布を考えても他にももう少し重点地域があって、その中で枚方市駅という位置付けを示してもいいのかなと感じましたので出させていただいています。</p>
吉川部会長	<p>私も個人的に考えると、こちらが自分自身の専門的なところなんですけど、枚方市駅周辺が中心市街地であり続ける必要がないのではないかなと僕自身は思っているんで、ひょっとしたら、商業的にいくと今はもう樟葉駅の方がポテンシャルが高くなっているのではないかなという気がするんですよね。だから、ちょっと中心市街地が枚方市駅だという決めつけで考えない方がいいのかなという気がしますね。もちろん重要ですよ。それこそ枚方市駅は交野線も出ているわけで、そういう目で見ると、樟葉駅の方は、交</p>

通ネットワーク上はあまり利便性がないんですが、だけどバスルートという話になると、いずれ枚方市も全域でサービスを引き止めさせようと思った場合、人口減少社会に入ったときに、どこまでサービスができるかという話を考えると、やっぱりコンパクトシティ化していかないといけないという話で、都市計画の方では、総合計画が出てくるのを待っているところが実際あります。そういう意味での地域資源というのは、既存の市街地であるとか、駅、あるいは駅空間というのをうまく活用するということがちょっとあるかなと思います。あんまり部会長が勝手なことを言うと怒られますが。

観光でちょっと気になるのは、「地域資源を生かし」というのは、これは市内の資源ですよね。それで、人々が集いというのは、これは市民が集うんですよね。決して観光客が集うわけではないと思うんですよね。ですので、観光によって市民が潤うとか、事業者がある意味で儲かるという話とか、観光施策はどんな位置付けになるのかなど。僕自身は枚方の場合、非常に微妙だなという気がします。決して観光都市ではないですよね。京都、大阪の間に挟まれているところがあって、だけど、物の知った人がよく来ると思うんですよね。枚方宿に来るとか、先ほどお話のあった菊人形が見たいとかね。ということで、ひらかたパークにも来るという話だけど、それを前面に押し出して観光都市になるかという決してならないですよね。京都、大阪というような、下手すると大阪には外国人観光客はもう訪れない。訪れるのは心齋橋だけ、あるいはミナミだけだという話になっている気がするんですよね。ある意味でそういうものを使って、恒常的なまちづくりに生かせるようになればいいと思います。先ほど、舟運があったということで淀川と関連付けたまちづくりができてくればという話。あるいは市民が使えるような歩行者のネットワークが川と関連付けてあるという気がします。

谷本委員

川で思いつくことで言うと、スポーツではマラソンとかが3月にもあって、市内の人もそうですが、市外からもマラソンで人が来てくれると思うので、それも川べりを生かす一つの方法としてあります。そういう視点もあってもいいかなという気がします。

後閑副部会長

私、医療の方の関係の学部にいるものですから、病院だとかそういう働く場というのは枚方市内には結構あるので、学生はたぶん市内の方に就職する人が多いと思うんです。他の学部のことで、やはり、こちらの方の資料を見ていると、地域に根差した産業を育成することについて重要度は高いけれども市民の満足度が低いとか、それから活性化についても同じだし、それからあるいは市内工業事業所数が低くなっているというような傾向のことを考えると、じゃあ若い人たちが市内に定着したい、入りたいと思っても、入れるような魅力ある企業というか事業所というのが、果たして確保できるのかという気がいたします。

吉川部会長

たぶん、先生のところみたいに医療とか、看護師になりますということだったら、地元でも就職機会はあるんですけど、私のところの院生なんて全員東京に行っちゃいますからね、今年なんか。行かないやつはどこかといったら地元の県庁に就職するという話になっちゃうんで。だけど、ひよっとしたら、例えば大阪に勤めることになった人間は、枚方の大学に行っていて大阪に勤めるってなったら、それは枚方に居ついてもらいたいという話だと思うんですけどね。

谷本委員

実際、枚方の企業は求人が少ないです。それもあって、もっと地元からの採用を促していけたらなという気がしますね。

吉川部会長

逆に、嶋田委員なんかは、この前の話でも出ていたと思うんですけど、市のいろんな活動に大学生をもうちょっと積極的に巻き込めというか、何かそんな取り組みみたいなものが、この部分でも出てくるんじゃないかな。地域資源と言うと怒られるかもしれないけど、人材というか、人的資源を活用するという話になってくる気がするんですけどね。

<p>嶋田委員</p>	<p>ちょっと言いづらかったんですけど、この地域資源というところは、自分が思う地域資源の形じゃまったく書かれていなくて、地域資源というのを聞いたときにぱっと思いつくのは、やっぱり市民が1番大切な資源じゃないかということをしごく思っています。重点化すべき取り組みとしごく被るんですけど、事前説明のときにちょっとお話をさせてもらったんですが、これから若者もそうだし、地域の人のまちづくりへの参加というのがしごく重要になってくるんだということをしごく思っています。そうなったときに、今、地域のコミュニティの広報部と青年会と、それとスターダスト河内という盆踊りのチームの運営をしているんですけど、どの面で言っても、小学校6年生までは小学校の中で地域活動しているから、一緒に地域のことに関わったりということはできるんですけど、中学になったときから、クラブ、勉強と学校生活で、本人がやりたいと言っても親御さんがストップをかけるんですよ。なんでストップをかけるかという理由が、簡単に言うと対価がない。勉強はすればするだけよい高校に入るとか、目に見えるいいものがあるって、クラブ活動も頑張れば頑張るだけ成績が伸びるし内申も上がる。でも地域活動に時間を割いたからって何がいいのみたいな。そういうことに力を入れてやっている子どもたちのことを視野が狭いという評価を地域で下される方がいらっしやる。</p> <p>でも、中学生の親御さんのことを考えたときに、そういう視点で見られる気持ちもわからないでもないんですけど、そういう視点もあるんだなというところがあります。だから中学生の子たちとか、大学生が地元に残ってくれるのもしごく嬉しいんですけど、やっぱり、ずっと地元に残って高校まで行ったのに大学は違うところに行っちゃって、大阪で就職するというパターンが私の友だちではしごく多いです。だからやっぱり地域に興味を持ってもらいたいと思ったら、中学生以上からは、特に地域活動だったり、まちづくりに何か協力するような活動をしていたら、こういうよいことがあるとか、こういう評価をまわりからしてもらえると、ちょっとよい側面も、市からでも、何からでもいいんですけど、与えてあげると案外参加してくる人も増えるんじゃないかなというところがあります。</p> <p>それと、地域資源というのも若者だけじゃなくて、やっぱりこれからお年寄りの数がしごく増えてくるから、お年寄りもかなりの地域資源、重要な資源になるんじゃないかなと思っていて、お年寄り同士でいろんなサロンを開いて、仲良くしてってやるのもいいし、若者同士というのもいいんですけど、一同に集う場所というのが必ず必要になってくることだと思います。そう考えたときにも、何か有事で災害が起きたときも、自分の隣の人が誰かわからないとか、マンションだからマンションを出たらもう知り合いもまったくいない、自分は寝に帰るだけみたいな、そういうのではなくて、祭りを通して、自分の町内にこういうお年寄りがいるんだとか、そこで会ったら、次、道で顔を合わせたときには挨拶した方がいいのかなとか、そういう日常の関わりに入っていけるような施策というか、ソフト面の中のソフト面ぐらいになりますけど、そういうものを作った方が、箱物とかよりは、住民に直接働きかけるような効果が出るのではないのかなと思いました。</p>
<p>吉川部会長</p>	<p>重要なんですけど、なかなか難しいですよ。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>今年で14年目になるんですけど、私のチームも中学生からかなり離れていくので、かなり悩んでいます。中学生になる子が4人いて、初めて今年4人ともチームに残ると言って、地元の活動、青年会にも入ってということになって、何が違うかという、やっぱり1年生から入っている子たちで、地域のお祭りだとか、自分たちが地域の他の子たちよりも地元のおじいちゃんおばあちゃん、コミュニティの人などに顔が広いという感覚があるみたいで、私たちと一緒にやっていて、自然に地域の大切さとか上の人から学ぶというところもかなり自分たちの中で大切だったというところがあります。</p> <p>それと、下の子たちの面倒を見てとか、小学生のときから、河内音頭という地元の文化とか活動に子どもが参加していくということが、地元に着着を持って、地元のために何か自分たちのできることをしようって自発的に思ってくれるようなよいきっかけになるんじゃないのかなというところがあります。</p>

	<p>これは、「委員からの追加意見一覧」の6ページ、45番は追加で私がお話しさせていただいた意見なんですけど、その下の角野委員がおっしゃっている中に、「縦につながり機会づくりは行政の役割ではないか。手法の一例としては、地域の祭りなどが考えられる」と書かれているのも、私もその通りだなと思っています。剣玉を教えますとか、そのためにわざわざ開くようなものではなくて、お祭りとか、自分たちが関わって新しいことができる、若者からしてもちょっと自由度がある、自分たちで工夫すればおもしろいものができるという場を提供してあげることで、参加する機会につながるのではないのかなと思いました。</p>
<p>吉川部会長 43分</p>	<p>若者の視点は大事で、地域資源というのは今おっしゃったように、何も物だけではないので、人的資源もあれば、下にありますけど観光資源とか、これは私自身の分野になるんですけど、景観資源というのもありますし、リソースがあってもそれを使いこなさないと意味がないわけですので。</p> <p>それと、ちょっとメンバーの関係上、農業とかはなかなか意見が出ないかもわかりませんが、あるいは、産業の方で谷本委員、何かございますでしょうか。</p>
<p>谷本委員</p>	<p>そうですね。産業では、雇用の社会状況の流れで、いろいろ企業も従業員が減ったりして、統合されていったりとか、いろんなことがこれから起こっていきそうな流れの中で、増やすのも当然必要かも知れませんが、枚方で今操業されている企業さんがずっとそこに残ってもらって操業していただきたい、減らなければまずよいという思いもあります。そのためには、操業環境を維持、改善していくという視点をぜひ入れていただきたいと強く思ったのが一つあります。それと、ここだけではなく他のところにも書かれていましたので、医療機関との連携などを強化していくというのは重点化のところでもお話しさせていただいていますけど、そういったところかなあという気がします。</p> <p>農業はちょっとよくわからないんですけど、結構枚方の農業って存続自体が厳しくなっているんじゃないかなって気がします。後継者の問題とかもありますので、担い手を育成していくという取り組みもされていますけれども、どこまでそれを広く強く果たしていくのかというのはなかなか難しい問題もあるのかなという気がします。</p>
<p>吉川部会長</p>	<p>地域資源の一つが農業だと考えていくと、だいぶ難しい話になってくるなという気がしますね。それから、時間があれば重点化施策を考えていきたいと思うんですが、全部つながってくるというのがあります。あまり専門でないところでごちゃごちゃ言っても仕方ないなと。</p>
<p>嶋田委員</p>	<p>今、農業の話がされていて思い出したことなんですけど、私の大学で年末にアンケートがまわってきて、何のアンケートかという、「農業アルバイトがあったらあなたは行きますか？」みたいな質問で、そのアンケート用紙に書いてあったのは、大学の屋上かどこかに、地域の農業をされている方をお招きして1時間当たりの対価も払ってというバイトがあった場合、あなたは参加しますかという試み。それは実際に若者が農業に興味を持ってやってみようかなという子が出て、私はやってみようと思って、やりたいと答えたんですけど、そういう子が、そういう試みも学生の中でちょっと出てきているのかなと思っていたんで、今思い出したのでお話しさせていただきました。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>道場みたいなものだと定期的に絶対参加なんですけど、私もちょっとボランティアとか趣味で畑を手伝っているんですが、自由参加的な感じなんで、ここでやっているからやりたい日に来なさいみたいな段階で準備した方が、働いている人とかも来やすいんじゃないかなという気がします。いきなり本業でいくのは、なかなか農業では壁が高いと思いますので、気軽に行ける、まあボランティア気分で行って、私のところは、収穫のときにただでもらえるというか、労働力の対価みたいな感じで、安くして損が出ないようにという、現役をリタイアした人が中心にやっていて、趣味みたいな感じでやっているの、その一歩手前の緩い段階をつくったら、関心を持ってさらにステップを踏める</p>

吉川部会長	<p>んじゃないかなと思います。</p> <p>我々は農業従事者じゃないから、実際、本当に農業で生活を立てておられる方に対して、枚方市がどうすべきかという話と、どうも今議論している話とはどうしてもちょっと違ってくるのかなという気がします。</p> <p>今日は基本目標2つだけと思って安心していましたが、最後に榮野委員にご意見をたくさんいただかないといけないということもありますので、2つ目にいきたいと思います。</p> <p>「自然と共生し、美しい環境を守り育てるまち」というところで、自然環境保全、緑、ごみ、生活環境、地球温暖化、まち美化、景観。何かどちらかと言うと、環境保全の方がえらい多いみたいな感じに思うんですが、私自身にとってみれば。第1部会の方に環境保全の専門家が1人おられます。</p>
後閑副部会長	<p>ごみのことがあるんですけども、こちらの22ページの上段のところでは、市民としては「ごみの発生を抑制し、資源を循環させてごみを減らす」についても重要性はすごく高い。だけれども現況についてはまだまだ満足度が低いという意識との乖離があるのと、あとは、ペットボトル・プラスチックの収集量だとかごみの資源化率というのがあまり目標に追いついていない。すごく離れているというところが、これはあくまでも行政のところでこういう掲示がされていますが、それはすごく大切なことだと思うんですけども、それだけではなかなか解決に持っていくのはできないと思うところがあって、意識だけでは解決できないというところで、もう少し市民意識をより高めていって、もう少し何かできるような対応が取り組みの方向性ということはとても重要だと思いますし、これからの環境のことを考えて、何か具体的などころをもっとよい方法がないかということを感じるころなんです。</p>
伊東委員	<p>ごみの問題について、廃棄物だったりとかは仕方ないと思うんですけど、17ページのポイ捨てとか歩きタバコとかは、やっぱり家庭での問題というか、親の育て方とか周りの大人の態度だったりとか、そういう何か精神論的な部分じゃないのかなと思うので、それはやっぱり家庭教育とか別の分野になりますけど、そこで意識をつけるのが大事なんじゃないかなと思います。積極的な参加というのも親がそういうことを意識しないと子どももポイ捨てとかすると思うんで、しつけの問題と関わってくるんじゃないでしょうか。そういうときに青年会とかがあると、ちゃんと注意し合えるんでしょうね。また、それとこれはつながってくるかなあと。</p>
後閑副部会長	<p>今後、再生可能エネルギーの普及が行政としての取り組みだとすると、ここには太陽光だとか風力だとかというものを積極的に行政の方でも取り入れていくという施策にしていこうということになるんでしょうか。</p>
吉川部会長	<p>どうですか。問題が挙がっていますけど、お題目ではよいという気はするんですが。</p>
事務局	<p>現在のところでは、太陽光発電のパネルを設置したりというところでありまして。新たに、今おっしゃっていただいたような風力とかいう具体的なイメージはないんですが、再生可能な視点をもっていくという低炭素社会のところを意識したもの、風力などがありますが、実施できる、あるいは想定できる可能性というところでいくと太陽光発電のあたりという状況です。</p>
吉川部会長	<p>何かの標語で「Think Globally, Act Locally」というのが出たと思うんですが、地球温暖化というのは非常にグローバルな問題だけれど、実は非常に地域のローカルなところで活動していきますよ。それから、たいそうに最初から再生可能エネルギー云々というよりは、もうちょっと地に足がついた取り組みが、市の総合計画としての対応、それはひいては地球温暖化対策につながっているということに効いてくるんじゃないの</p>



	<p>かなという気がします。</p> <p>そういう意味で言うと、例えば緑を増やすというのも、実は、地球温暖化対策といえますか、変な話なんですけど、美しい環境云々という話になると、この間の橋本さんの話で思ったんですけど、緑だけじゃなくて水もだよという気がするんです。特に、淀川もあれば、穂谷川とか天野川とか、いろんな川があるので、川の水というの考えないといけないのではないかなという気がしますね。</p>
吉川部会長	<p>生活環境、自然環境とかその辺のご意見はございませんか。</p>
伊東委員	<p>リサイクルのところで、16 ページの上ですけれども、「小型家電リサイクルの実施」と具体的事例があるんですが、他の自治体で行政がリサイクルとして大型ごみを集めて、シルバー人材センターの方に手直しをしてもらって、それを販売しているというところがあったんです。ボランティア程度になるのかもしれませんが、そういうふうにしたらシルバーさんの雇用になって、廃棄料金がかからなくなって、市民の方は安く手に入れられる。そういうリサイクルをしているところがあったので、そういうところも余力があれば、雇用にもなると思います。</p>
吉川部会長	<p>枚方市の分別は厳しいんですか。市町村ごとにみんなレベルが違いますよね。</p>
事務局	<p>種類のモデルで実施しているところもあるんですけど、そこを全域的にやっているということではないです。</p>
後閑副部会長	<p>例えばゴミ袋が有料であるとか。</p>
事務局	<p>有料ではないです。</p>
吉川部会長	<p>有料ではないんですか。私のところでは、買いにいかないといけないから、家内がいちいち文句を言いますけどね。</p>
後閑副部会長	<p>資源ごみのものは資源ごみの袋に分けているところもありますよね。</p>
事務局	<p>そうですね。曜日を分けて一般の分とプラごみから粗大ごみというのがあります。</p>
後閑副部会長	<p>そういうのって導入すると、主婦の感覚からいくと、小さいごみの袋の方が安いので、結構意識的になる。</p>
谷本委員	<p>ごみの話で、個人とかご家庭向けの取り組みだけでなく、事業系ごみについても減量をしていく方向性を出してみるとかはちょっといいかなという気がしますね。</p>
伊東委員	<p>自然環境のところで、宅地開発をしないようにするとか、決めておくとか、それと、緑の割合を減らさないように決めておくとか。何対何の割合で緑を何%確保しますということを掲げるとか。</p>
吉川部会長	<p>法律的には決まっていまして、例えば区画整理をしたりとか、新しいことをしたら何%は緑地で確保しないといけなかったりということは、一応法律上は定められていて、法律を上回るような条例で厳しくしていくという方向を打ち出せばいいんですけどなかなか難しい。実は、枚方市は景観条例を施行していまして、大阪府よりは厳しくなっている。この会議の直前、今週の木曜日に実は景観審議会がありますので、そこで、屋外広告物を規制していく誘導と規制の取り組みについて進めているところなんですけどね。どこまでそれを総合計画の方で言っていたかどうかなという話です。たぶん、自然環境保全という意識でいくと、枚方の場合なんかは、穂谷川の奥の方に穂谷と</p>

	<p>いう地域があつて、自然環境を残しましょうというスタンスで、都市計画的にも、あるいは景観計画的にも定められています。ただ、それ以外のところは、それぞれ場所によって、ここはどうしますというのが一応定められていますので、なかなか一挙にご説明するのはしんどいところがあるんですが、一律に緑を増やしなさいとか、宅地を制限するということは基本的にはできない。</p>
伊東委員	<p>開発したらどこか増やそうとか、そういう転換というか、削った分を増やすみたいな、例えば、空き家とかに鉢を植えるとか。</p>
吉川部会長	<p>先ほど農業の話を上上げたのは、基本的に都市計画の分野というのは、都市計画区域内であれば、そこを市街化区域と市街化調整区域の2つに分けちゃうんですね。それで、市街化区域というのは、市街化することの方が善なんですよ。だからそこに田んぼが残っていることの方が悪という話です、ある意味では。それで、市街化調整区域では今度は開発してもらったら困りますと、建物が建ったら困りますということが基本原則というふうに一応定められていますので、そういうことを踏まえた上で、全体的にどんな方向性を描くかというものが総合計画かなという気がします。どうしても具体的にハード的のところというのは総合計画では、なかなかコメントできない部分になってきているのかなって気がしているんですね。</p>
嶋田委員	<p>さっき空き家のことを伊東委員がおっしゃっておられたんですけど、どんどん空き家が増えていっているじゃないですか。何か見る家によってはお化け屋敷かなって思うくらい草が絡まって、あれは景観としたらどうなるのでしょうか。</p>
吉川部会長	<p>問題ですよ。これから益々増えていきますよね。人口が減ってきたら住む人がいなくなるんで。</p>
嶋田委員	<p>空き家を何か有効活用している例とかあるんでしょうか。</p>
吉川部会長	<p>例えば、京都の町家なんかは、町家ということ自身に価値があるもので、若い人たちが入って、ものづくりの場所にしたりとか、自分自身が住んだりという話があるんですけど、今、たぶん行政で問題になっているのは、手をつけないところ、そのまま捨てると崩れていくということで強制執行してしまうということを許すように、社会的にはなってきましたよね。最近、大阪市内で強制執行して取り壊してしまう、だけど取り壊しについては税金を支出するという話になるので大変難しい話で、これは、人口が減ってくると住む人が少なくなる。今、枚方市の場合は香里団地なんかをうまく更新していかないといけないというのが、嶋田さんがおっしゃったことにすぐ連動する話ですね。</p> <p>大阪府全体で見ると、千里ニュータウンとか泉北ニュータウンがあつて、僕は泉北のことはあんまり存じてないのですが、千里の方は更新が非常に活発に行われています。だから、この前人口動態の話がありましたけど、逆に若い人たちが入ってくる。千里中央なんかを歩いてみると実は年寄りと若い子どもたちを連れて、その間がないというまちになっている。それはたぶん団地が取り壊されて、昔の公団タイプの団地が更新されて、いわゆる今のマンションタイプに高層化されて、新たな住人が入ってきているということだと思えます。そういう意味で、美しい環境を守るという観点の中に入ってきてもおもしろい、重要な観点かもしれないですね。</p>
後閑副部会長	<p>それは、都市計画の市街化区域の話ですか。</p>
吉川部会長	<p>市街化区域と市街化調整区域を見直していくという話は、人口が減ってきたら、例えば、それこそ枚方の奥の方にたくさん住まれていると、サービスが行き届かないですね。ですから、今、国の方は、市街化して居住する人たちをできる限り駅の近くに住んでくださいとなつて、それこそ病院とか、学校とか、あるいは市の施設なんかもだんだん真</p>

後閑副部長	<p>ん中に寄ってきて、要するにコンパクトに暮らしていただかないと大変お金がかかることになる。</p> <p>わかります。私は樟葉ですが、樟葉駅の駅前って便利ですけども、ちょっと行きますともうかなり古い一戸建てのお家があって、そこは坂道になるんですね。あれだと年寄りにはなかなか買い物なんかは大変だろうと思うのと、そうだとしたら、自然体としてはどこにコンパクトというか、多世代の人たち、若い人も年寄りの人もどこに住んだらより便利になるか、長期計画というかそういうものも、市街化区域、市街化調整区域、よくわからないんですけどもそういうふうにして、構想を持って、だんだん開発を進めていくということが大切なんじゃないのかなと思います。</p>
吉川部会長	<p>いや、もともと考えているんですよ。例えば千里のニュータウンとか泉北のニュータウンでも駅の周辺は高層の住宅があって、次に中層があって、駅から遠いところは独立住宅というように、人口密度が真ん中に集まるようには作られているんですね。けど今問題になっているのは、周辺地域が独立住宅の住み手がなくなっているとか、あるいは、真ん中の高層のマンションでも、空き住居がたくさん出てくるということになってきています。ちなみに、枚方の場合は、公営のバスってあるんですか。</p>
事務局	<p>公営はございません。</p>
吉川部会長	<p>ないですよ。僕は箕面ですが、阪急バスがだんだんサービスを止めるわけですよ。止めてくると高齢者が病院に行くためのバスを用意しないとイケない。そうするとコミュニティバスというのがあって、一般の人も乗れるんですが、乗ったらすごく時間がかかるんですよ。いろんなルートがあって、すべてのところをぐるぐる巡ってやっと病院に行ける。けど、そういうものを市が用意しないとイケなくなってくるわけですよ。だんだんネットワークがなくなってくると、車には乗れない。僕自身も最近どちらかというともう自分で運転するよりは、家内に送ってもらうという方がいいねと思うようになってくる。そうすると、そういう住民サービスを行政側が担わないとイケなくなると、広いエリアを全部カバーするのは大変だから、真ん中に集まってほしいとなる。これはかなり先の話になると思うんですけど。</p>
嶋田委員	<p>友だちといろいろ話をしていたんですが、真ん中に人が集まって、今までいた団地が丸ごと誰もいなくなったとか、建物とかいろんなものが残っていたときに、朝も夜もずっと電気もつかないのに誰か住んでいるとか、そうやってきたらすごく防犯的に危ない市になって犯罪が増えるんじゃないかということをやっと心配しています。</p>
吉川部会長	<p>そういうことにならないためには、香里団地なんかが新しくリニューアルをしていかないといけないという時期に来ているんじゃないかなということですね。</p>
谷本委員	<p>そういう意味でいくと、郊外の戸建てに若い世代の動ける人たちが住むような施策をもっとこう明確に打ち出してあげるというのも一つ手ですよ。空き家が増えるのを待つだけじゃなく、高齢者はコンパクトに。</p>
吉川部会長	<p>柴野委員にも聞かないといけないと思うんですけど、そうなってくると、今一番問題なのが税制で、郊外に構えていると、実は一戸建ては税金が高いとか、逆に一番問題なのは相続税が払えなくなるとか。そうすると、例えば東京の場合なんかは、実は多摩市とかで、税金とかもう知らんという人がどんどん増えてきているんですよ。それで、現実には、例えば千里で生まれ育っていても、さっき申し上げたように枚方で生まれ育っても、勤めるのが大阪市内だとか、あるいは東京へ行ってしまう。そうすると、自分の両親が住んでいるけど、亡くなられたらその家はどうするのかと。私の大学時代の同級生で、もう向こうに行って、関西には縁もゆかりもないというのも何人もおりますし、逆</p>

	<p>に今度は、自分自身の家族は東京にいながら、ご本人だけは介護のために帰ってこないといけないというような話もあります。</p> <p>身につまされる話なんですけど、僕の年齢がばれちゃいますが、実は、一昨日、中学校の同期会がありまして、450人の中学校で90人集まったんですよ。卒業後50周年というつながりで、私は65歳なんですけど、ほとんどがもう退職しているんですけど、それが久しぶりに帰ってきている。「今どこに住んでいる?」、「実家にいる」、「お前東京にいたんじゃないか」、「いや家族は東京にいるよ」と。「何で実家にいるのか」と聞いたら「おふくろの介護で帰ってきている」という話があった。</p>
後閑副部長	<p>先生、そういうのってね、郊外に若い子が住めるように更新をしていくような都市計画というのはどういうふうにしたらいんでしょうか。</p>
吉川部会長	<p>郊外に住むと言っても、郊外に住まわれた場合、サービスするのは大変なんです。例えば、道路整備もしないといけないだろうし、バスもサービスしないといけないという話になってきますから。今、バスもあんまりサービスしていないとなると、鉄道ネットワークになるが、最後に言ったように駅を中心にものを考えましょうという話になるのです。</p>
後閑副部長	<p>なるほど。</p>
吉川部会長	<p>ある意味でその辺で先進的なところ、コンパクト化がうまくいきつつあるというのは、富山がライトレールという市電をうまく活用してやっています。</p> <p>少々時間が押しているんですが、最後、行政運営というところで、この辺のところは、榮野委員の方からいろいろご意見をいただければと思っています。「市民等がまちづくりに参画しやすい環境づくりの推進」、「効率的な市政運営」、「地方分権」等々、項目が出ているんですが。</p>
後閑副部長	<p>ちょっと質問なんです。資料の27ページのところなんですけど、「自治会等加入世帯率」が7割くらいで、下のところに自治会未結成の集合住宅とかがあるためと記載されている。あるいは「校区コミュニティ協議会数」も少ないというか、これは、やっぱり自治会に入っていないなくても別に困らないからということなんですか。</p>
嶋田委員	<p>私がいろいろ関わっているご家庭でも、やっぱり入っていない方っていらっしやって、例えば共働きでまったく地域のことに興味がなくて、入っても入ってなくても、とにかく私らのところの家計さえしっかりしていれば、何か起きたときにはお金で解決できるという考え方で、隣同士の関わりも面倒くさいから何もやらんでいい、子ども会も入らなくていいというご家庭が結構あったりします。</p>
吉川部会長	<p>枚方の自治会はあれですけど、校区コミュニティ協議会というのはいろいろと熱心という話を伺っているんですけど。</p>
事務局	<p>はい。45小学校区に校区コミュニティ協議会がございます。それで、各地域、取り組みの温度差というか、そういうところは、どうしても出てくると思うんですけども、それぞれの校区で地域の防災の訓練であるとか、活動をしていただいております。</p>
嶋田委員	<p>先週の土曜日、私の地域の校区コミュニティの会議があったんですけど、こういう総計の会議に出させてもらっているおかげで、かなり校区コミュニティの会議の方でもちょっと感じる場所があって、何か変わっているなと思う点があります。私の校区コミュニティってかなり防災の面では進んでいるんだなというのを感じて、避難所マニュアルとか、実際、どこのまちで、どのように運営をして、どういう問題が起きたときにどう対応するということも組み立てて考えておられたりとか、それと、もう1個は忘</p>

	<p>れちゃったんですけど、結構進んだことをやっています。</p> <p>追加意見の1ページ目の4番に、「地域防災推進員については、人数を増やしていくことも大事だが、現在の推進員が引き続き取り組みを充実できるようフォローしていくことも大切である」というところも、ちょうどこの前の校区コミュニティの会議で話が出ていて、次年度からは、うちの校区だけで33人か35人くらい推進員が生まれていて、でも生まれて終わりじゃなくて、これからこの推進員で集まって研修とか、認識を新たにしたりとかするようなことを実際にやっという取り組みも始まっています。</p> <p>私のコミュニティは住んでいるところなので当たり前だと思っていたんですけど、案外そうじゃない校区もあつたりとか。私たちはそういうところも上の方たちがしっかり考えてくださっているんで、もし何か起きたときには日頃やっている力を発揮して、みんなで支え合ってできるよという気持ちはすごくあるんですけど、ないところの校区って、ほんとに皆さんの中でコミュニティというものがどのように認識されて、住民の間でどういう立ち位置にあるものなんだろうってすごく疑問だなと思っています。</p> <p>何か特別なまちづくりに関する活動をやったコミュニティだけを、カウントしているところがあったと思うんですけど、どこだったかな。</p>
事務局	先ほどのところの「自治会等加入世帯率」の上ですかね。
嶋田委員	そうです。
事務局	地域づくりデザイン事業になります。
嶋田委員	そのデザイン事業って、団体が7ってことは、7つの校区コミュニティしかやってないということですか。
事務局	そうですね。「地域づくりデザイン事業」というのは、特徴のある地域の実情に即した他市のモデルになるような取り組みということで、市の方で補助金を出していて、一定の審査も行います。そういった中で提案をしていただけて、デザイン事業を行っていただいているということについては、それをクリアしたところということになりますので、今のところ件数が目標値には達していないということです。
嶋田委員	うちの校区では確かこれは、「ニッピー」という笛を作って、全戸、要望があれば配布するというのをやったかなと思うんですけど。これは強制じゃなくて、やりたい校区だけがやるって感じですか。
事務局	そうですね。制度をお伝えして、提案してもらおうということですね。
嶋田委員	温度差があるということですが、熱の低いコミュニティというのはどういう活動をされているんですか。
事務局	各校区というのは先ほどの自主防災組織につきましても、45小学校区コミュニティすべて結成されておりますので、必要な分野の取り組みというのはそれぞれの校区で行われておりまして、その取り組みのレベルでは、市民のワークショップのお声でもご意見がありましたけれども、各校区で一定の取り組みの重さというか、レベルの差がちょっとあるところが、本市の課題ではないかというところをおっしゃられています。
吉川部会長	効率的な市政運営の分野で榮野委員から何かご指摘いただければと思うんですが。
榮野委員	一つご提案は、効率的・効果的な市政運営というふう副題を変えてもいいかなと思うんです。効率だけを求めるんじゃなくて効果的に取り組んで、その上で行政改革のところになるかと思うんですけど。「市民がまちづくりに参画しやすい環境づくり」とい

	<p>うのがあります、市民活動への支援というのは出しているんですけども、一方で行政としては、一緒にやりますよみたいな姿勢がちょっと出ていないので、行政改革あたりに行政としても共に取り組みます、それが効果的な市政運営につながりますと。それが効率だけが目的だとちょっと問題だと思うんですけど、NPO なり、企業さんなり、行政に参画するという動きが今あるんで、そういうものと一緒に市政運営をやっていくことによって、より効果的な市政運営ができるという表現を行政改革の中に入れたらどうかというのの一つ思います。</p> <p>もう一つはいわゆる IT というか、情報化の問題なんですけれども、市民への発信、それから市民の方が電子自治体としていろんなふうに活用できると書いてあるんですが、右側の市政運営の方は、情報って個人情報保護はもちろん入っているんですが、今度はこっちが効率化になると思うんですけども、より ICT を活用することによってさらなる行政改革という視点も入れてもいいんじゃないかなと思いました。</p> <p>これはすべての部分にかかってきますよね。広報・広聴のところでも ICT だろうし、効率的・効果的のところ、要するにエフェクティブなところも、なんでエフェクティブになっているかどうかというの、ここはちょっと私自身の専門を語ると、市有財産管理とかってアセットマネジメントという考え方が、いろんなところに出てきていると思うんですよ。これも、今、榮野委員がおっしゃったように、すべてあるからお金をかけて残すってわけにはいかんだろうし、だけど、効率一辺倒でどんどん減らしていくのも悪いわけで、やっぱり効果的に必要十分なものだけは用意しないといけないですよ。そういう考え方が必要かなという気がします。市民参画は市民の力をとということであれば、よく言われているように、じゃあ、行政の方はどうするかという観点がもうちょっといるのかなと。</p>
吉川部会長	
榮野委員	<p>今の書き方だと「活動を支援します」だけで、分野ごとにいろんな市民、NPO の活動を期待しますと書いてあって、行政としても協働関係が必要なんだよということを盛り込んでいけば姿勢が出るのかなと、そんなイメージを持っています。</p>
嶋田委員	<p>「自治会等加入世帯率」がずっと横ばいで、なかなか増えないということ自体が、住民の防災の意識の低さをかなり表しているんじゃないかと思うところがあって、自分の町内に建っている電灯がコミュニティとか自治会で切れていたら取り替えてもらっている、そういう自分の身近なところでお世話になっているという感覚がない。要は自分たちの家だけお金があれば大丈夫みたいな考え方の人がかなり増えているんだというのが、これを見ただけでもすごく感じる場所があります。</p> <p>やっぱり、そういう人たちに向かって、こういうことを期待しますと言ったところで、何も変わらないんだろかなというのがすごく目に見えて浮かぶところかなと思っていて、ある程度はこうして下さいとか、これを義務付けますという言い方はちょっと難しいかもしれませんが、最低限これさえしてくれていたら、有事の際は住民同士でこういうサポートが受けられますなり、なんなりというのを行政の方でしっかりと示していただいた方が、自治会に入って下さいという人たちも、入らないことをわかっていて毎回行ったりとか、そういうときにも入ってくださったりしたら、こういうときにこういうサポートが受けられるんですよということで、少しは増加につながるんじゃないのかなと。ある程度、規制してもらって、やっていただいた方がいいんじゃないかなと思います。</p>
伊東委員	<p>最近引っ越しまして、住所変更をしたのですが、そのとき、「自治会に興味がある方、入りたい方は何階の何課へ」というプリントをもらったのですが、「興味がある方、入りたい方」となると、わざわざその階へ移動して聞きに行く人は少ないと思います。自治会が何なのかわからない人もいると思います。だから、住所変更した場合、次はこちら（隣の席）で自治会の説明を、という流れ作業にしたらいと思います。どしたらいいかわかりにくい手続きなので、その辺、システムにしてちょっとプッシュしてあげた</p>

<p>嶋田委員</p>	<p>らいいんじゃないかって思いました。そうなってほしいと思ったら、そうなるように誘導してあげるみたいな、そういう仕組みを作って、断るんならそこで断ったらいいいと思うんですけど、あんまり断る人もいないんじゃないかなとちょっと思ったりします。</p> <p>私のまちの一番上の自治会長さんとかもかなり高齢で、前の代の方とかで、新しく入って来られたら、一軒一軒挨拶に行って、「自治会長です。こうこうして下さい」という話もしておられたみたいなんですけど、マンションなど、もう出入りしたのかどうかもわからないような状態になってからは、「しんどくて行けないわ」とか言っちゃって、萎えているところもあるので、流れ作業で手続き的にやってもらえたら一番楽なんじゃないかなと今思いました。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>個人で入るべきものなのか、家族を持っている人が入るべきものなのかも知らないんで、親元にいたら、小さいときは入っていて当たり前だったんですけど、1人暮らししたときに、これはどうしたらいいのかなと思って入っていないんです。</p>
<p>吉川部会長</p>	<p>基本的には個人の意思になるから、なかなか難しいところがあると思うんですけどね。だけど、先ほど言っていたように防災等の連携で、例えば、共助となったときに、コミュニティのサポートを得ようということになると、自分がここに住んでいることをご近所には認識しておいてもらわないといけないから、つながってきますのでね。仕組みとして簡単かと言うと、難しいところがあるでしょうね。それがコミュニティみたいなものがあるって、無理に全員が全員、同じ方向を向いて入るということでもないというところがあるんですよ。我々、専門の立場からすると、コミュニティとプライバシーというのは実は対立概念なんです。プライバシーで個人情報保護だとか言っているのと、コミュニティ活動というのは実は相反する話なわけですよ。ですので、実はそういうものを受け入れながらも、だからこそボランティアで、誰か知らなかったけど隣に住んでいたから助けましたという話につながっていくのがコミュニティ活動かなという気がするんですよ。</p> <p>そろそろ時間が来てしまいました。基本目標の残りの2つと最後は行政運営ということで3つの部分についてご議論いただいたわけですが、残りの時間を使って、これもまた非常に難しい話だと思うんですが「重点化すべき項目」についてご意見を伺っていきたくて思っております。どなたでも結構でございます。ある意味で、先ほど冒頭に申し上げたように、横串といいますか、決して、縦割りではなくて、つながっていく、連携するといいますか、例えば先ほど伊東委員の方から始めの方で広報紙云々というのがたぶん1番最初に出てきたと思いますけど、行政の広報・広聴活動のところへんという話になってきますし、それぞれ委員の皆様でここは重点化してほしいとか、あるいはすべきだと考えるところがございましたら、ご意見をいただければと思います。</p> <p>口火を切るといってあれですけど、前回と今回の意見を伺っていると、いろんなご意見を含んでやっていこうと思うとお金がなんぼあっても足りない、それだけ人材はあるのかなという気がするんです。それで、私は1番最初の根元に話があったと思うんですけど、もともと人口減少社会に入っていっているわけですよ。枚方はどんと落ち込むのをこらえてサステイナブルに残っていきたくて思っているところで、ここに重点を置かないといけないんじゃないかなという観点でお考えいただいたらいいのかなという気はするんですけどね。そのためには、よく伊東委員がおっしゃっている若者世代を受け入れて、子どもを産んでいただいてということでバランスを取っていきたくてという話もあるだろうと思いますし、今日は富岡委員と角野委員がおられませんが、教育で大学の学生が留まっていくということをしたいのか、あるいは嶋田委員の若者でという話。人口減少をとどめたいというところと関連するのかなと思うんです。というところで、重点化すべき項目をお考えいただければと思うんですが。</p>
<p>榮野委員</p>	<p>今おっしゃっていただいた視点とかぶると思うんですけど、ずっと議論に参加させていただいて、共通する重要施策というのは市民参加というのが大きな重点化すべき</p>

	<p>ところじゃないかなと思います。先ほど、効果的な市政運営につながるというお話をさせていただきましたけど、結果的に効率化というところにつながって、持続可能な行政運営につながる。今までの行政に任せておればいけるという時代ではたぶんなくなるという、積極的に市民に参加していただかないとなかなかこれからの行政運営は難しいといったことで、市民参加というのを1番目に挙げておきます。</p> <p>それと、いろんな分野があるんですが、ここはあんまり私が口出しすることではないんですけど、追加意見でも申し上げたんですが、やはり過去からの経緯で言うと、文化、教育、それから医療、こういったところが枚方の強みなのかなと思いますので、打ち出すのであれば、そういったところも意識しておいた方がよいのかなと思います。</p>
後閑副部長	<p>市民参加という中で今まで出てきたのは、中学校のときからとか、あるいは若者、若い世代からとか、いろんな世代があるので、市民参加もやはり小さなときから意識付けられた市民参加というものが教育の場からも参加してほしいし、家庭からでも参加してほしいし、多様な世代から参加してほしい、あるいはいろいろな組織からも参加ということをやってほしいと思います。</p>
伊東委員	<p>だいたい病院と妊婦さんとか、保健センターと妊婦さんとかいった感じで、中がなくて孤立してしまうようで、職員さんもそんな手助けをしている場合じゃないみたいな感じなので、そこに事業者の取り組みがつながるといふ協働を挟むというか、そういうふうにした方がよいと思うし、行政だけではやっていけないという部分もあると思うんですけど、行政の方の知識だけで今後やっていくのかということもあると思います。実際、どう採用されているのかわからないですけども、やっぱりその専門家とかNPO団体とかたくさんいますので、そっちに委託してしまうみたいな、手放していくというんですか、全体的には管理することは大事だと思うんですけども、そういうふうに変えていくという、ある意味行政を楽にしていこうという方がよいかなと。</p>
吉川部長	<p>従来の市民参加という考え方はある部分を市民に代替で担っていただく、シティズンパーティシペーション、ある部分に参加をしてもらいますという感覚だったんですけど、たぶん、今、榮野委員とか伊東委員がおっしゃっているのは、行政側と市民側とが共働、コラボレーションする。共働というのは共に働く共働であって、協同組合の協同ではないだろうし、コオペレーションでもなくて、コラボレーション。ある種の緊張関係を持っていないといけないのかなという気がするんですよね。コラボレーションというのはある意味で競争的協調的活動ですので、逆に言うと、さっき言い得て妙で、榮野委員からもありましたが、今後の行政と、あるいは枚方市のアーバンマネジメントをして都市を運営していくという考え方でいくと、コラボレーションがぜひとも必要になってくるよというのが頭にあるんじゃないか。そこには、効率というところはいかにコストを下げてやっていこうかという考え方でですから、ひょっとしたら切って捨てるって話につながっていくと思うんですよね。ではなくて、効果的というエフェクティブに動かないといけないという観点が重要。</p> <p>それと、今日榮野委員がおっしゃっていただいた考え方で、大阪の中でも枚方の地域性みたいなものが生かされないと意味がないと思うんですね。それこそ、北河内や、あるいはさっき谷本委員がおっしゃった淀川のそばとか、それなりの地域性みたいなもの、それはやっぱり文化とか歴史というものと関連付けられていく話だと思うので、それは教育も連携するだろうし。</p>
嶋田委員	<p>私も重点化施策は市民参加が1番かなと思っていて、やっぱりこの総計自体は3年とか4年だけ使うものじゃなくて、かなり長いスパンで方針として使っていくものだったら、20年とか長期で見たときに、市民参加の中でも、今、0歳で生まれた子が例えば今考えているような施策のもとで運営した枚方市で育ってきたときに、20年で20歳になるじゃないですか。20歳になったときには大学生だったりとか、それぞれどのように生きてきたかというのが見えてくるときに、それぞれが自分のまちに愛着を持って育って</p>



<p>後閑副部長</p>	<p>いたりとか、枚方市にすごく愛着を持って育ててくれたら、人口がどんどん減少していったときにも愛着を持って残ってくれるというのが、人口減少を食い止める一つの方策にもなるだろうと思うので、私も市民参加でよいのではないかなと思います。</p> <p>やっぱり、その中でも若者からお年寄りまでつなげようと思ったときには、お年寄りにディスコに行つてというのは絶対不可能な話だから、学校の教育を通して、文化をお年寄り若者で自然に共通の場で体験したりとかするような、何かよいものができればいいんじゃないかなと思います。</p> <p>重点化の中で、最初の頃に挙がっていたのが、災害医療とか保健だとか健康だとかということがあります。やはり枚方の中には医科大学があったり、歯科大学があったり、医療に関してはかなり充実しているところなので、そういった保健、健康、医療も効率的・効果的にやっていくということも必要なんじゃないかなと思います。</p>
<p>伊東委員</p>	<p>そこと関連するかもしれないんですけども、前回、中学校まで病院代がタダみたいな話が出たと思うんですけど、ただ、そうすると、やっぱり財政が厳しくなると思うので、教育で自分の健康を守るにはこうしたらいいという予防医療という言葉がありましたけれども、そういうところで保健、健康は出していただきたいなと。そこで余った予算を別で使うということがワークショップの意見で出ていたんですよ。使わなくて済むところは使わないようにして、余った予算は高齢者福祉なんかに戻していくという流動的な財政の仕組みを作るといふものもあるみたいで、よい方に回っていったらいいのかなと。最終的に住民税が安くなればみんな枚方市に来ると思うので、そういうふうによく中学校まで医療費の助成を伸ばしたから財政が逼迫するのではなくて、病院に来なくてもよくなるためにはどうするかという家庭教育も付け加えてもらったらよりよいと思います。</p>
<p>吉川部長</p>	<p>話をお伺いしていると、例えば今回の部門とか、課題というのではなくて、かなり骨太な話かなという気がするんですね。たぶん、今おっしゃられている話というのは、すべての世代にわたってという話で、これは前のときにも議論が出たと思いますが、すべての部門を考えると、重点化するときには市民参加を考えてくださいと、何かの部門計画を立てるときには、文化、歴史も考えてくださいという観点かなという気がするんですよ。あるいは、教育とか医療も考えてという話かな。特別にこの施策をやりなさいとか、防災一辺倒でも、教育一辺倒でもないだろうとは思いますがね。</p>
<p>吉川部長</p>	<p>他にございませんか。これだけは言っておきたいという話がありましたら。もうそろそろ時間も押していますし。</p>
<p>谷本委員</p>	<p>全然違う話で、ピントが外れているかもしれないですけど、行政の施策にもあったんですけど、シティプロモーションという言葉が出ていて、さっきからそれが気になっていて、枚方市さんはすごくよいことをいっぱいやっていたり、取り組みもたくさん出していたりするけど、それを発信するというか、そういうところも上手に効率的かつ効果的にやったら、みんなが思っているようなよい地域としての面をもっと表に出せるんじゃないかなと、さっきからすごく思っていました。そういった視点もちょっと重視して、評価していったらよりよくなるんじゃないかなと感じるところもあります。</p>
<p>吉川部長</p>	<p>ある意味で、枚方に住んでいることがプライドになっているということですよ。</p>
<p>谷本委員</p>	<p>そうですね。そういうことにつながるような。</p>
<p>吉川部長</p>	<p>決してそれで競争する必要はないと僕自身は思っているんです。逆に言うと、市民に対して十分な広報活動が行き届いていけばいいのかなという気がしますよね。</p>

谷本委員	<p>どこの市だったかは忘れたんですけど、1つの地域資源をきれいなポスターにして、そこの市とは違うところに貼ってあって、そういうのをみただけで、住んでみたいとまではいきませんが、ちょっと興味が沸いて行ってみたいと思ったりするんですよ。例えば、自分の市がそこでそういうふう目立って表に出ているというのを見るだけで結構愛着が沸いたりする、誇りに思えたりするという部分もあると思いますので、そういう意味の打ち出し方をうまくしていったら、住んでみたいとか、そういうところにもつながっていくんじゃないかなと感じたりしました。</p>
吉川部会長	<p>今日の読売新聞を読んでいると、最近、日本を売っている本だとかテレビ番組とかが増えている。それはそれでよいことなんだけど、逆にそれが意味で変な自尊心だけをくすぐっているようなものでは問題だという意見があったように思いますし、だけど、ある意味で誇れるところに住んでいるからこそ、自分自身も活動できるだろうということも思いますしね。</p>
谷本委員	<p>競争するんじゃなく、魅力を出して惹きつけるという、そういう意味合いのものであればいいかなと思います。</p>
吉川部会長	<p>よく都市間競争という話がありますけど、僕はものすごく違和感を感じるんです。この前、榮野委員もおっしゃっていたように、関西の中で都市間競争をやったって、みんな落ち込んでいくだけで、取り合いしてどうするんだと思うんです。東京に比べてどうなんだという考えでないといけないのではないかなと思うんです。それはそれとして、ある意味で、ひょっとしたら個人主義じゃないですけど、個人市になりすぎてもだめで、枚方は枚方で頑張っているということになっていけばいいのかなという気はしますね。</p> <p>たぶん、重点化というのは、企画課が期待しているような重点化という話とはつながっていないのかもしれませんが、一応こちらへんで。第1部会の方の内容とも合わせてという話になってくるんですよ。</p>
事務局	<p>はい。またご報告させていただいて、またそれからご意見をいただくという形になります。</p>
吉川部会長	<p>それでは、せっかくまとめてくいた内容をホワイトボードにまとめていただいたので、コンサルさん、ちょっと簡単に報告していただきますか。</p>
コンサルタント（都市空間研究所）	<p>(本日の審議内容について報告)</p>
吉川部会長	<p>はい、どうもありがとうございます。何か頭の隅っこの方で、今やっと回路がつながりました。クリストファー・アレグザンダーという有名な都市デザイナーがいて、その人が書いた本が「コミュニティとプライバシー」という本だったと思うんですが、あの対立概念は、コミュニティとプライバシーという対立概念ではなくて、パブリックとプライベートという対立概念でした。今やっと回路がつながりました。</p> <p>ということで、先ほど課長の方からお話がありましたように、我々の部会とそれから第1部会の意見を踏まえて、これは事務局の方で整理していただいて、次回4月24日の全体会議でお示し、全体としての議論をするということです。</p> <p>それでは、次の議題に今後の進め方が挙がっていたと思いますので、事務局の方からご説明をしていただければ。</p>
事務局	<p>(資料3「総合計画策定スケジュール(案)」の説明)</p>
吉川部会長	<p>次第の3. その他ですが、事務局の方から連絡事項はございますでしょうか。</p>

事務局	<p>本日の資料等についてご不明な点、またご意見等ございましたら、恐れ入りますが、3月30日月曜日までに、電話、メール等で事務局までご連絡の方をお願いいたします。また、本日の資料につきましては、机の上にそのままに置いていただきましたら、委員専用のバインダーの方に閉じて保管をさせていただきます。</p> <p>次に、本日の会議録につきましては、事務局の方で案を作成いたしまして、各委員の方でご確認いただき、その結果を部会長と調整し、決定したものを本市のホームページの方で公開してまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、次回の審議会ですが、先ほどのご案内の通り4月24日金曜日午後6時から、市役所別館の4階にございます特別会議室におきまして開催させていただく予定としておりますので、改めて案内の方は別途させていただきますが、ご出席の方、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
吉川部会長	<p>ありがとうございます。それでは10分少々時間が延びてしまいましたが、第4回枚方市総合計画審議会第2部会を終了させていただきたいと思っております。本日はお疲れ様でした。</p>